

京都府 令和4年度第2回後発医薬品安心使用に係る 意見交換会での講演について

講演日時：2023年2月21日（火）13:30～16:00

形式：WEB方式

テーマ：「ジェネリック医薬品の信頼確保」に向けた日本ジェネリック製薬協会の取組みについて

講師：田中 俊幸 氏（日本ジェネリック製薬協会 広報委員会委員長）

概要：京都府内の医療・介護、医療保険関係者の皆様に向けて当協会の取組みについて説明しました。

（講演後にいただいたご意見）

- ・（ジェネリック医薬品の使用促進について）安定供給に不安がある中で、病院としても強くは推進出来ない。国が一旦、立ち止まるということをお願いし、それが我々の意見。
- ・供給が安定するまでこれから早くも3年ということは、それまで当分はジェネリック医薬品の使用促進が出来ないということの良いのか。
- ・医療現場が望む情報提供とは、“発注したモノがきちんと届くこと”である。
- ・（ジェネリック医薬品メーカーの不祥事について）ガイドラインがあっても“コンプライアンスが出来ていなかった”ということ踏まえ、国が襟を正せるかどうかは半信半疑。
- ・業界団体としての取組みが分からなくもないが、言葉の端々に課題解決の中でも課題にフォーカスしている感がある。全体としてのんびりした印象を受ける。ぜひこうした現場の声を国の提言に反映してほしい。
- ・講演内容についてよく分かった。一方で、現場にいるとこうした情報はほとんど入ってこない。ただモノが無いということで患者まで不信感を募らせている状況。京都府には、今回のような情報交換会をぜひ今後も継続的に実施することをお願いしたい。
- ・現状を考慮した使用促進のあり方については行政としても適宜国に意見していく。同時に、本日お聞きした通り、業界団体の取組みについても聞きながら関係の皆様には引き続き、ジェネリック医薬品の安心・安全使用促進に努めていただきたい。